

(第7期) 第4回さいたま市公民館運営審議会 議事録

1 開催日時

平成26年5月27日(火) 午前10時から午前11時45分まで

2 開催場所

内野公民館 2階会議室1・2

3 出席者名

〈委員：13名〉

- ① 安藤 聡彦 委員長
- ② 生越 康治 副委員長
- ③ 有賀 覚 委員
- ④ 五十嵐 健一 委員
- ⑤ 大高 研道 委員
- ⑥ 柿塚 一二三 委員
- ⑦ 川西 美紀 委員
- ⑧ 黒岩 清 委員
- ⑨ 高後 仁 委員
- ⑩ 清水 千代 委員
- ⑪ 鈴木 京子 委員
- ⑫ 谷崎 美智子 委員
- ⑬ 長岡 綾子 委員

〈生涯学習振興課 企画振興係〉

課長補佐兼係長

山本 高弘

〈拠点公民館職員：9名 内野公民館職員1名〉

- | | |
|--------------------|--------|
| ① 西区 指扇公民館長 | 小林 照教 |
| ② 北区 大砂土公民館長 | 塚田 和正 |
| ③ 大宮区 桜木公民館長 | 斎藤 隆 |
| ④ 見沼区 大砂土東公民館長 | 鶴見 道子 |
| ⑤ 中央区 鈴谷公民館長 | 佐藤 賢一 |
| ⑥ 桜区 田島公民館長 | 戸張 豊一 |
| ⑦ 浦和区 岸町公民館長 | 横田 隆夫 |
| ⑧ 緑区 大古里公民館長 | 三上 富士夫 |
| ⑨ 岩槻区 岩槻本丸公民館 館長補佐 | 宮崎 通夫 |
| ⑩ 西区 内野公民館長 | 佐伯 加寿美 |

〈事務局：6名〉

生涯学習総合センター

- ① 館長 井原 優
- ② 副館長 小川 栄一
- ③ 主幹 森田 隆之
- ④ 主幹兼事業企画係長 関根 一男
- ⑤ 事業企画係主査 宮川 通
- ⑥ 社会教育指導員 橋本 佐度子

4 委嘱状交付

新たに委員となられた大高委員への委嘱状交付を経て議事に入った。

5 議 題

- (1) 第2次さいたま市生涯学習推進計画について
- (2) 公民館に関する意見について
- (3) 内野公民館の事業説明・館内見学について

6 配布資料

- (1) 第7期第3回さいたま市公民館運営審議会議事録
- (2) 「第2次さいたま市生涯学習推進計画」資料（資料1）
- (3) 公民館に関する意見（資料2）
- (4) 内野公民館資料（資料3）

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

なし

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

前回（第7期第3回さいたま市公民館運営審議会）議事録の承認を経て議事に入った。

議題（1）第2次さいたま市生涯学習推進計画について、資料1に基づき生涯学習振興課企画振興係 山本課長補佐兼係長より説明。

安藤委員長	ただいま「第2次さいたま市生涯学習推進計画」概要版を使って説明いただきました。これについて何かご質問等ありますでしょうか。
-------	---

有賀委員	<p>概要の基準となる数値に注目しました。まず3ページ、「すべての人が学べる社会」の1年間に生涯学習を行った人の割合が67%、次に4ページ、「学習成果を活かせる社会」の生涯学習を通じて身につけた知識や技能を活かしている人の割合が80.5%と高いのに対して、5ページ、「学習を通じてつながる社会」の生涯学習を通じて身につけた知識や技能をボランティアなど地域活動に活かしている人の割合は6.6%、他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に活かしている人の割合は3.5%と低いことがわかります。</p> <p>この数値について、いろいろなコミュニティなど、人と人との交流をするうえでの問題点、反省点などがあるのではないのでしょうか。</p>
山本課長補佐	<p>この数値は平成24年度に、生涯学習の市民の意識の現状について、市民2500人を無作為に抽出して調査をした結果です。「生涯学習を通じて身につけた知識や技能を活かしている人」の割合は80.5%で私も高いと思いました。</p> <p>ところが内訳を見たデータもありまして、それによると「自分の健康に活かしている」など、自分の中にとどまっている人の割合が多いことがわかります。それから「生涯学習を通じて身につけた知識や技能を地域活動に活かしている人」の割合が6.6%と低くなっていますが、これについては、この数値が現実を表しているものととらえています。</p> <p>生涯学習を通じて得た成果を地域に活かしていこうというアプローチは難しい面もあり、反省になるのですが、この数値をどういうふうに伸ばしていくかが今後の課題かと考えています。</p> <p>参考に最後のページをご覧ください。「学習成果を生かすために参加してみたい活動は・・・」という意識を問う質問に対しては「まちづくり、地域づくりを支援したい」という割合が15.4%と、実際に地域活動に活かしているという数値よりは高い数字が出ています。これからは、学習情報の周知、提供から始めていきたいと考えています。</p>
安藤委員長	<p>ありがとうございました。大変大事なポイントだと思います。「学習成果を活かしている人」の割合と「学習成果を実際に現在の社会に活かしている人」の割合の数値をどのようにつなげていくかということは公民館にとっても大きな課題だと思います。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
五十嵐委員	<p>「つながる社会」というものを私は考えます。先日、防災関係の避難訓練の打合せに出席しました。さいたま市では講座などで「防災アドバイザー」をかなり養成していると思うのですが、「私は防災アドバイザーです」と言って手をあげる人が少なく、自治会の仲間も知らないのが実情です。講座などで勉強したあと「自分はこういう勉強を</p>

	<p>しました」と発信できるよう、地域で声をかけあって交流して地域につながっていくことがこれから必要なのかなと思います。</p>
鈴木委員	<p>私は中央区で「子どもたちのチャレンジスクール」というサークルで活動しています。概要の最後のページで「休日や放課後に学校の教室などを活用した、子どもたちの学習やスポーツを支援する活動」に参加してみたいという人の割合が10.1%という数字をはじめて目にしました。数字で改めて見てみると勉強になりました。</p> <p>それから、前回の会議で鈴谷公民館には文化祭がないことを申し上げたところ、早速とりあげていただき、文化祭が実行されることになりました。ありがとうございました。</p>
安藤委員長	<p>それは革命的な出来事ですね。素晴らしい文化祭になることをお祈りいたします。</p> <p>「生涯学習推進計画」は私たちが公民館活動の方策を考えていくうえで非常に大事な指針となるものなので、皆さんで学習しあいながら進めていきたいと思います。</p> <p>それでは、議題2「公民館に関する意見」の説明を事務局をお願いします。</p>

議題（2） 資料2「公民館に関する意見」に基づき、事務局事業企画係 関根主幹兼係長より説明。

安藤委員長	<p>今期の公民館運営審議会では、まず公民館に関する意見を皆さんで出し合い、公民館運営審議会として「こういう問題意識を持っていこう」ということを来年秋に提言として出すために、これまで2回ほど審議してまいりました。その結果を今、紹介いただきました。</p> <p>提言を作っていくためのテーマを決めていくことを次回以降行っていくしますので、とても大事な問題になります。</p> <p>資料2についてももう少し質問、感想、新しい意見などありましたらお出しいただきたいと思います。</p>
黒岩委員	<p>私はさいたま市の自治会を代表してここへ来ています。先日、自治会連合理事会で旧浦和市の連合会長から公民館の使用料のようなものを年1回請求されるということを聞きました。旧大宮市では聞いたことがなかったので、どのようになっているのか教えていただきたいです。</p>
小川副館長	<p>今のお話の使用料というのはおそらく文化振興費のことだと思います。旧市のときからある公民館において歴史的なものです。</p> <p>旧浦和市では、各自治会、1世帯あたり、10円～20円くらいを集め、公民館の文化祭など公民館活動の一部の費用として使っていると聞いております。</p>

黒岩委員	旧大宮市ではなかったことです。さいたま市になってすでに10年以上経ているのですから、同じような形で運営するべきではないですか。
小川副館長	旧浦和市の各公民館において、文化振興費について今後どうするか検討中のところもあります。公民館の公費に充てているのではなく、地域の協力組織に関わる費用の一部として使っていると聞いております。文化振興費は今までの公民館の歴史の中で培われてきた面もあるので急にやめることは難しい部分があります。その辺のところのご理解をいただきたいと思います。
黒岩委員	文化振興費というのですか。
小川副館長	はい文化振興費です。各公民館の文化祭や子ども会の実行の補助などに利用される費用と聞いております。
有賀委員	それは公民館の利用者団体全部から徴収しているのですか。
小川副館長	各自治会で各世帯から集めていると聞いております。
黒岩委員	旧大宮市では文化祭など、行事ごとに実行委員会ができて、そこでお金の使い方を決めていました。公民館のお金の使い道について今一度うかがいたいと思います。
小川副館長	各公民館に設置してある公民館運営協議委員会の中でお金の使い道は決めていると聞いております。
長岡委員	前回、公民館運営協議委員会がある公民館は50館位と聞きましたが、50館すべての館に地域文化振興費があるのですか。
小川副館長	旧浦和市ではあるところが多いですが、文化振興費はもうやめたというところもあると聞いております。
柿塚委員	<p>私は浦和区からきています。公民館の歴史はそれぞれ違うのです。浦和は昭和22年から各地区で公民館を作ろうという熱意が盛り上がり、沢山の地域の方々が寄付をしてその建物を建てるところから始めました。</p> <p>地区の公民館運営協議委員会というのは地区の人々でできています。公民館長は入っていません。その公民館運営協議委員会で話し合っていて決めて、その中で支出をしています。たとえば、文化祭で子どもには参加賞をあげたり、子ども会の球技大会に道具の援助をしたりしています。</p> <p>それぞれの地区にはそれぞれの気風、伝統というものがありますから、市が合併したからといって同じようにしましよといっても、断ち切れないものがあります。地域の団体は公民館を守り、育てていくという意識、気持ちが強いので、浦和区全部とはいえませんが、私のところでは、従来通り文化振興費はおさめましよう決めていきます。</p>
安藤委員長	とても大事な議論をしていただいたと思います。

	<p>公民館という皆で学ぶ場を様々な努力、協力をしあいながら作っていく中で、お金の問題をどう考えるかという問題です。</p> <p>地域によって様々に歴史が違っていて、私たちがそれぞれの伝統をどう捉えて、これからの新しい社会教育の施設である公民館を生み出すために、今までの歴史と経験をどのように発展させていくかということとはとても大事なところだと思います。</p> <p>いつか柿塚委員には浦和の公民館の歴史をうかがう機会を作りたいと思っていますのでよろしくお願いします。黒岩委員も貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>他にございますか。高後委員には、学校との関係、連携の視点から何かお考えがありましたらお願いします。</p>
高後委員	<p>資料2の最初の意見について一言申し上げます。</p> <p>学校は、いろいろな地域の事業も含めて公民館から協力依頼が多くあります。学校としては、お子さんの活動、活躍の場が広がって大変ありがたいことだと思いますし、学校のことを地域の方々に知っていただく良い機会になります。ところが、「～の企画にお子さんの作品を出してください」、「～という企画に参加させてください」というお話を急にいただくことが多いのが現状です。</p> <p>資料2に、「企画に参加する機会や仕組みそのものを検討することが大事」という意見があります。私は宮原公民館の運営協議会に参加していますが、こういう場で公民館のより長期的な取り組みの計画を提示いただき、学校として、どういう計画でどういう協力ができるのか、無理はないのかという話がつめられれば、一層うまく連携が図れるのではないかと考えています。</p>
安藤委員長	<p>先日、私も学生の教育実習の指導で川越市の小学校にうかがう機会があり、学校の年間スケジュールをいただきました。4月の最初の時点で年間計画がここまで細かく決まっているのかと驚きました。学校で進んでいる時間の刻み方と公民館の時間の刻み方に違いがあるということですね。</p>
高後委員	<p>そういうことです。学校では学習内容も含めて全部年度初めにはもう計画されていて、それに沿って進めていきます。</p> <p>例えば、図工の作品を展示したいという時に、その作品はもうお子さんに返してしまっていて準備できないという事情もありますので、長期的な計画を示していただけるとありがたいと思います。</p>
安藤委員長	<p>他にはいかがですか。</p>
生越委員	<p>資料2の前回出した意見の中で「現状、大人のマナーが良くない」とあります。公民館を利用する者として、マナーの向上をしあい、お互い気をつけられるところは気をつけたいという気持ちはあるので、公民館側の皆様から、こう使ってください、という部分を入れていた</p>

	できればより良いと思います。
安藤委員長	<p>三つめのマナーについての知見の共有化をどう進めるのかという意見でございました。</p> <p>皆様には大事なご意見を出していただいたと思います。このあと皆様と協議をしながらテーマの絞り込みをしていきたいと思います。続きまして議題3 内野公民館の事業説明に移りたいと思います。</p>

議題（3）資料3に基づき、内野公民館長より事業説明。

安藤委員長	<p>ありがとうございました。公民館を作るとはどういうことなのか、このように作られていくのだと勉強させていただきました。ロケットスタートという言葉思い出しました。館内施設見学の前に何かご質問がありましたらお願いします。</p>
生越委員	<p>開館して間もないのですが、一日の来館者数、どのような層のどのような方々が使われているのか教えてください。</p>
佐伯館長	<p>登録団体数は80を超えています。一日の利用は5件程度と空いていると言えますが、多目的ホールは比較的うまっている状況です。登録の方の特徴として、特別支援学校に通われているお子さんのお母さん方が「皆で交流をしたい、そして他にも障害者の方がいらしたら入ってください」というグループがすでに3つ登録があります。若い方の登録もあり、比較的幅広い世代の方がいらっしゃるような感じます。</p>
安藤委員長	<p>特別支援学校の保護者の皆さんというのは、あちらから「お願いします」と来られたのですか。</p>
佐伯館長	<p>はい、そうです。特別支援学校には、通園でリハビリに通っているお子さん達や、小学校に入る前に通っているお子さん達がいて、内野公民館ができることを事前に知り、「ここを使って集まりたい」と、開館前に見学していただいていたいました。また肢体不自由の車いすの方には、和室が使えるので興味をもっていただいています。</p>
安藤委員長	<p>ありがとうございました。ほかに質問等なければ、見学に移りたいと思います。</p>

内野公民館長の案内のもと施設見学。

安藤委員長	<p>それでは再開させていただきます。佐伯館長、ご説明ありがとうございました。皆様からは、できたての公民館を見学し、驚きとため息が出ていました。すばらしい施設だと思います。勉強させていただきました。何かご質問等ありましたらお願いします。</p>
-------	--

各委員	なし。
安藤委員長	本日は様々のご意見をいただきましたが、今後さらに協議を重ねて審議のテーマ、さらには提言のテーマの絞り込みをしていきたいと存じます。

その他

- ・次回は、7月29日（火）10時00分から桜木公民館 講座室1・2において開催することを確認した。

11 閉会